

事務事業評価表（一般事業）

1次評価日（主幹等） 26年3月31日

2次評価日（課長等） 26年3月31日

1 事業名	都市整備事業	コード	132301
-------	--------	-----	--------

2 担当部課	部等 建設水道部	課等 都市計画課	作成者 田中 哲夫
--------	----------	----------	-----------

3 事業概要	目的体系	基本目標	快適に生活できる、都市機能の充実したまち		
		政 策	計画的土地利用の推進	施 策	まちの活力を高める市街地整備
		予算科目	都市整備事業総務事務費	業務委託	なし（直営）
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
		根拠法令	都市計画法		

●事業の内容（D0）

4 事業の概要等		*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
事業の概要 （簡潔に）	土地の有効活用や基盤整備を検討中または興味のある地区等に対し、区画整理事業又は地区の特色を生かした整備手法のアドバイスや地域住民と共に検討し事業化を図る。			
目的	対象者	都市基盤整備を検討している地域住民		
	意 図	住環境の基盤整備を図る		

5 事業の実施内容		*25年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容		
湖畔若宮地区の地区計画による事業推進について、地区において地権者等と共に計画の趣旨や道路整備の進め方等の確認及び助言を行なった。				
前年度の課題への対応	関係地権者等との懇談会に参加し事業化の合意を得た。			

6 指標の達成状況		*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度			
区 分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)	
① 活動指標（指標名）	説明会等参加者数			単位	回
実績値	1	1	1		
*指標の説明	地権者への地区計画説明等の回数				
② 成果指標（指標名）	説明会等参加者数			単位	人
目標値	20	30	30	30	
実績値	28	10	8		
達成度	140.0%	33.3%	26.7%		
*指標の説明	説明会等を行った場合の参加者数				
*目標値の設定方法の説明	過去3年間の実績値の最大値				

7 ア) コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 直接事業費	48,620	22,040	28,000	51,000
経常経費	0	0	0	0
臨時的経費	48,620	22,040	28,000	51,000
* 臨時的経費の説明				

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(見込み)
② 人件費	400,000	800,000	800,000	800,000
正規職員の人数(人)	0.05	0.10	0.10	0.10
③ 合計コスト(①+②)	448,620	822,040	828,000	851,000
前年度比		183.2%	100.7%	102.8%
財源内訳				
一般財源	448,620	822,040	828,000	851,000
特定財源	0	0	0	
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	400,000	800,000	800,000	
前年度比		200.0%	100.0%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名		23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
街づくり区画整理協会負担金	件数	1	1	1	1
	金額	28,000	28,000	28,000	28,000
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア)の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	28,000	28,000	28,000	28,000
	割合	57.59%	127.04%	100.00%	54.90%

* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値 前年度比 80.0%	0
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値 達成度 26.7%	0

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること) 事業化へ向けて地区住民と検討する中で、関係地権者等の理解・協力が伴うため丁寧な説明が必要である。	
改善方法	(上記の課題をふまえて26年度以降に実施する、具体的な改善の内容) 該当地区の懇談会や協議会を開催し、関係地権者等と課題を共有しながら共に一步一步解決していく。	
	改善開始時期	平成26年4月

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること	B
-----------	--------	---	---